

授業研究



問題の提起・社会科

〈他者〉を楽しむ続ける子どもを育てる社会科授業

「郷土の伝統や文化」

大竹手すき和紙手描きこいのぼり

—— ひろしま鯉のぼり ——

広島大学附属小学校教諭 深渡瀬聖子



指導案や写真などの資料がご覧いただけます。ぜひご利用ください。

はじめに

本校では、令和二年度より「〈他者〉を楽しむ続ける子どもの育成」を研究主題に設定し研究を推進してきた。研究を進めるにあたり、「〈他者〉を自分の認識の外部にあるもの、異質なものと考え、そのようなものとの出会いから自分の認識が更新することのよさを味わおうとする学習者を育成することを目指してきた。社会科部においても、教室の〈他者〉を重視し、教室にいる友達や自分の考えの外にあるものなど、すべてを〈他者〉と捉えてきた。また、「〈他者〉を、わたしたちのまわりにある

社会問題と設定した。同じ社会問題について考える教室の中の多様な仲間が〈他者〉性をもつとき、目指す子ども姿により迫ることができると考える。また、教室における多様な仲間とお互いの考えを突き合わせながら問い合い、追究し続ける過程は「多様な他者と共に生きる社会の市民を育てる」ことに大きく貢献すると考え、研究を推進してきた。

二 授業構成

(1) 単元名

郷土の伝統や文化

「大竹手すき和紙で伝統を今に受け継ぐ」

「ひろしま鯉のぼり」

(2) 単元デザイン

広島市の中学年が使用する副読本には、本単元の内容にかかわっては、原爆ドームや原爆の子の像など、被爆遺構を残し保護する人々の働きや平和への願いが取り上げられている。また、青葉出版の「わたしたちのきょう土 広島県」においては、壬生の花田植えや厳島神社が取り上げられている。4学年の社会科において、広島県全域の学習を行うことから、県内の様々な伝統工芸や年中行事が取り上げられているため、広く認識されている伝統工芸を取り上げられることも、中学年社会科においては重要な要件だと考えられる。伝統工芸について、産地が直面している主な課題として「需要の減少」、「後継者の不足」、「原材料・用具等の不足」が挙げられる。少子高齢化や核家族化、感染症後における年中行事の衰退などの理由からの課題も様々あり、そこから、これからの伝統工芸の在り方を考えていく上で、受け継ぎ次世代へつなげようと尽力している取組について学びを深めることも必要だと考えられる。

本単元では、大竹手すき和紙を用いた手描きこいのぼり「ひろしま鯉のぼり」を取り上げた。本単元では、「〈他者〉を、大竹手すき和紙で伝統を今に受け継ぐ」「ひろしま鯉のぼり」とした。「ひろしま鯉のぼり」は、江戸時代から始まったとされる大竹手すき和紙を用いて、手描き、手作りで制作されているこいのぼりであり、現在、作家の「杉本海一氏」が一人で継承している。「ひろしま鯉のぼり」の和紙は、県内で唯一手すき和紙をつくっている大竹市の和紙を使用しているが、そのどちらも児童への認知度は低かった。本学習を通して、児童の知らない伝統的工芸品との出会い、その歴史的背景や現在に至る経緯を知り、保存や継承などの取組から、これからの伝統工芸の在り方について考えることができる単元である。そして、現在受け継いでいる保存・継承の仕方を二つ目の〈他者〉とした。伝統工芸に限らず、伝統産業全般には、先に述べた様々な課題がある。背景には、高度経済成長に伴う生活様式、雇用環境などの変化などが挙げられている。解決に向けた取組として、伝統的工芸品産業振興補助金や伝統的工芸品産業支援補助金、伝統的工芸品の産地ブランド推進事業などの施策がある。大竹手すき和紙手描きこいのぼりの継承者である杉本氏も、